

災害時感染制御支援チーム Disaster Infection Control Team (DICT)

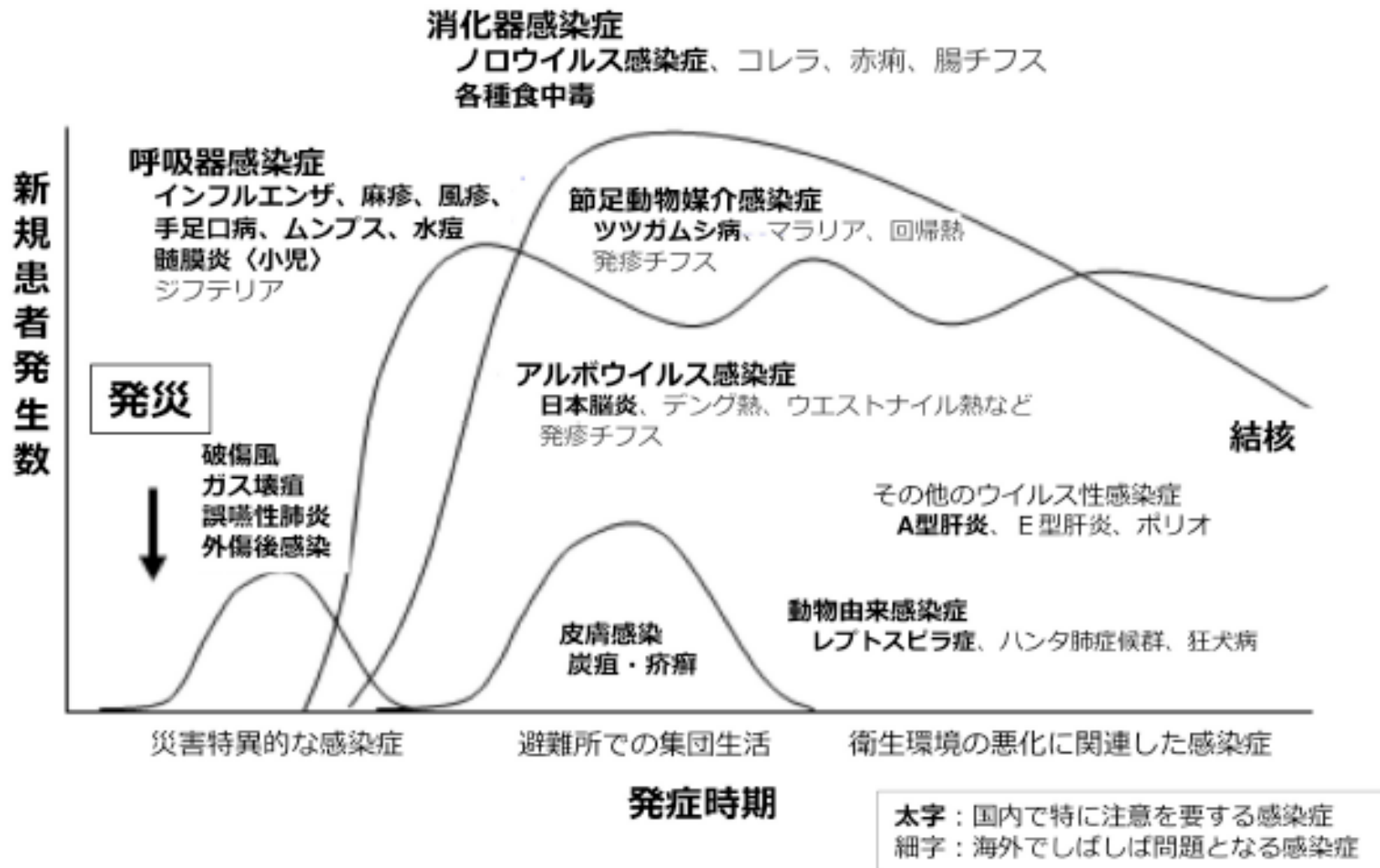
日本環境感染学会 災害時感染制御検討委員会

委員長：泉川公一（長崎大学大学院）

副委員長：櫻井滋、菅原えりさ

委員：大毛宏喜、緒方 剛、小野寺直人、小山田玲子、加來浩器、川口辰哉
川村英樹、馬場啓聡、古宮伸洋、高橋幹夫、高山和郎、田代将人、千酌浩樹
寺坂陽子、村木優一、渡邊都貴子

自然災害と感染症



避難所においてまず考慮する感染症

避難所においてまず考慮する感染症

避難所では、感冒を始めとする一般的な感染症がみられる。COVID-19 流行下においては、COVID-19 の伝播リスクも考慮する。高齢者が多い状況や近接した集団生活、栄養状態、衛生管理を考慮した場合、感染症の頻度は比較的高くなることが予想される。

急性上気道炎	鼻汁、咽頭痛、咳嗽、頭痛、倦怠感など
COVID-19	発熱、咳嗽、頭痛、倦怠感、味覚障害、嗅覚障害など
インフルエンザ	急激な発熱、鼻汁、咽頭痛、咳嗽、頭痛、倦怠感など
肺炎	頑固な咳嗽、膿性喀痰、呼吸困難感、チアノーゼなど
結核	頑固な咳嗽、喀痰、倦怠感、血痰など
膀胱炎	頻尿、排尿時痛など
感染性胃腸炎	嘔吐、下痢、腹痛、発熱など
食中毒	集団で発生する嘔吐、下痢、腹痛、血便など

Disaster Infection Control Team (DICT)

日本環境感染学会が主体となって編成する災害時感染制御支援のためのチームで、
感染制御の実務経験者により編成される職能集団

活動目的: 大規模災害被災地の避難所における集団感染症の制御

活動対象: 大規模災害被災地における避難所と施設の生活者

災害対策基本法における災害の定義に準拠した状況において、大規模な住民の避難、長期間の集団生活が必要となる状況を踏まえ、避難所が開設された際、当該施設における集団感染の発生リスクを早期に把握するための活動、および避難所内で発生する感染症の抑止や発生時の制御に資する活動、専門的助言を行う

日本環境感染学会・DICTの歩み

	主な災害	日本環境感染学会の動き
2011年	東日本大震災	小西敏郎理事長(当時)の指示で支援を開始
2012年	「被災地における感染対策に関する検討委員会(アドホック)」発足	
2014年1月	大規模自然災害の被災地における感染制御マネジメントの手引き発刊	
2015年	関東・東北豪雨	賀来満夫理事長(当時)の指示で現地との連携開始と視察
2016年 2月	「災害時感染制御検討委員会(常設)」発足 DICT発足	
2016年 4月	熊本地震	迅速DICT出動、物資支援、自衛隊&長崎大学病院および隣県大学病院ICTと連携
2016年 8月	台風10号水害	岩手県岩泉町への物資支援
2017年 7月	「厚生労働省防災業務計画」に学会名とICTの派遣が記載された	
2017年 7月	九州北部豪雨	情報収集と待機
2018年 6月	大阪北部地震	情報収集と待機
2018年 7月	西日本豪雨	情報収集と待機
2018年 9月	北海道胆振東部地震	道庁を通じて 厚真町、安平町、むかわ町に物資支援と視察
2019年6月	DICT活動要綱(2019)制定	
2019年10月	「被災地域における感染症予防対策の専門家の派遣要請について(厚労省/事務連絡)」にDICTの名が記載	
2019年11月	DICTキックオフ研修会/メンバー登録開始 166名登録	
2020年 2月	クルーズ船対応	船内アセスメント、感染制御対応、物資支援
2020年 7月	熊本豪雨	情報収集と待機
2021年9月	大規模自然災害の被災地における感染制御支援マニュアル2021発刊	
2022年1月	日向灘地震	情報収集と待機
2022年3月	福島沖地震	情報収集と待機
2022年10月	日本医師会JMATと協定締結	
2024年1月	能登半島地震	1/3-2/19

能登半島地震感染症対策支援・ワンチームで！

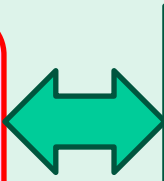
保健医療福祉調整本部

厚生労働省

DMAT、DHEAT、日本赤十字社など



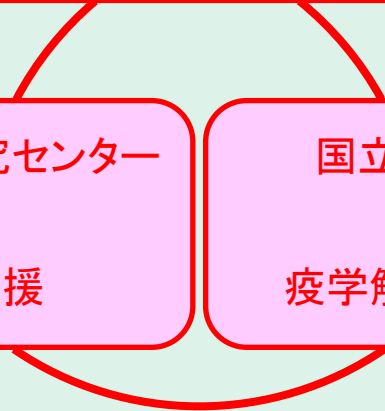
日本環境感染症学会
災害時感染制御検討委員会
DICT



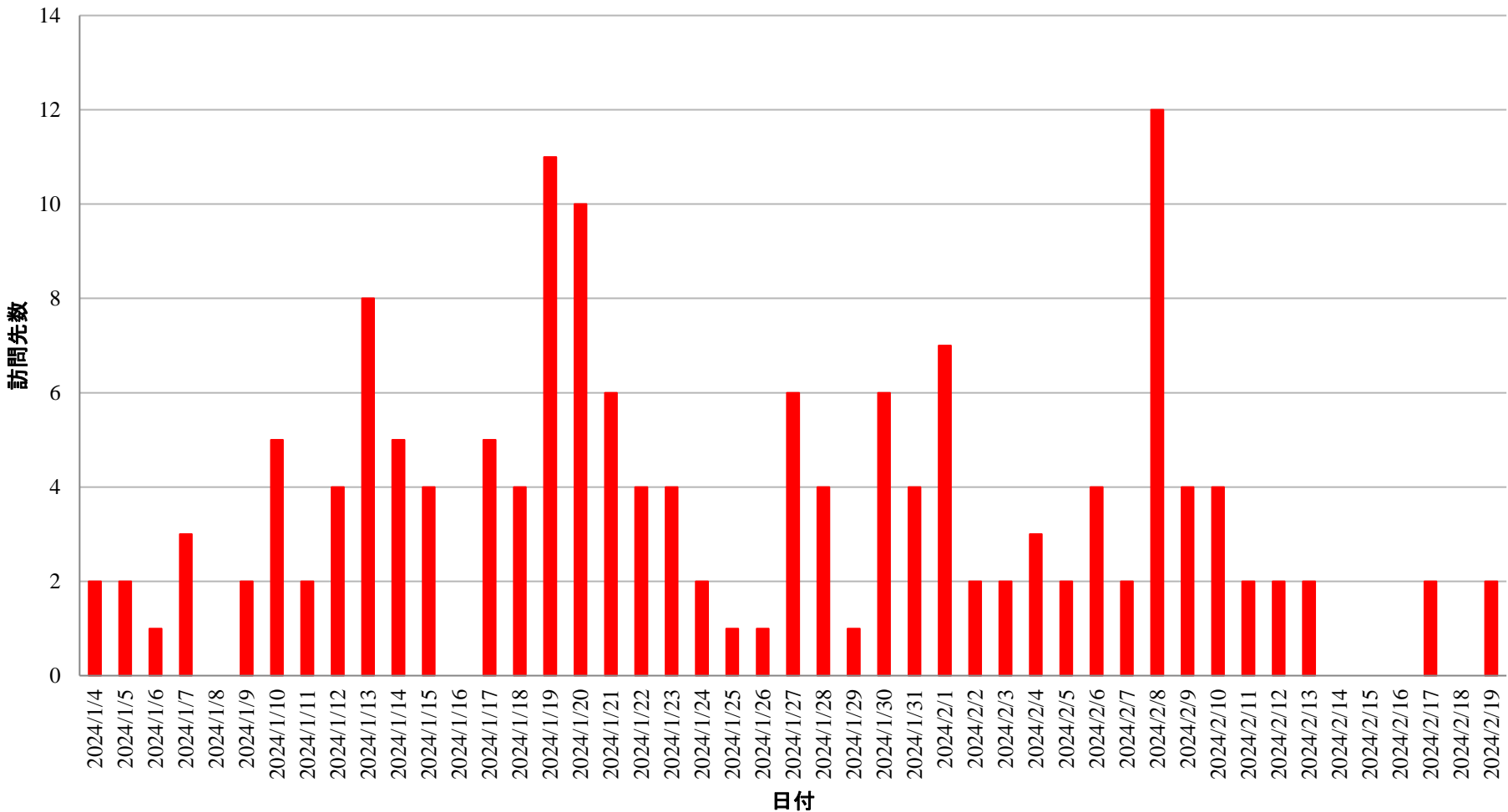
JMAT

国立国際医療研究センター
NCGM
感染対策支援

国立感染症研究所
FETP
疫学解析・アセスメント

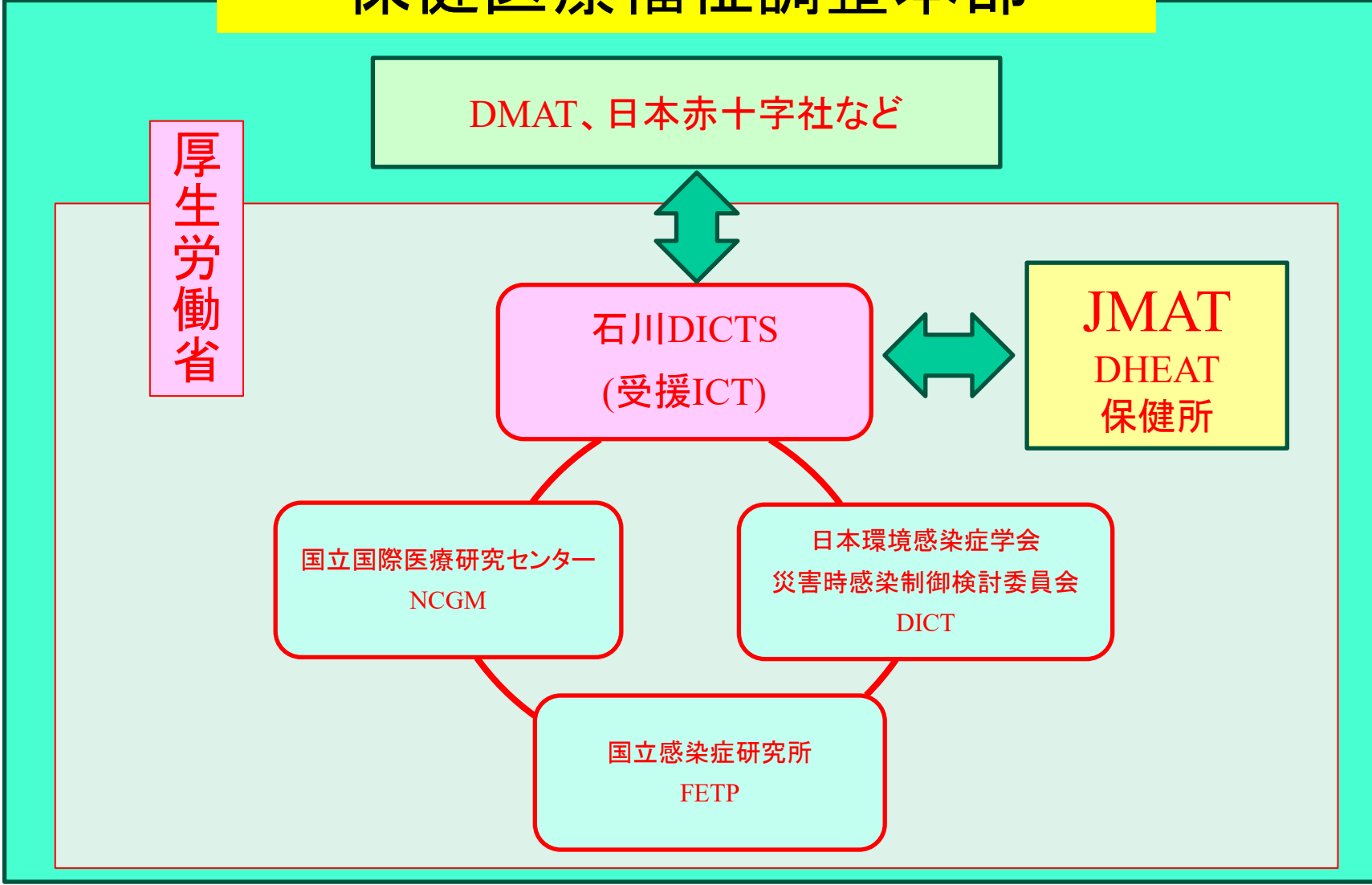


2024/1/3以降のDICT活動実績 (訪問避難所数)



能登半島地震感染症対策支援・石川DICTSへ移行

保健医療福祉調整本部



日本環境感染学会・DICT研修会



DICT活動のロールモデル:熊本地震支援活動を振り返る
 支援DICT(被災地に出動する場合)(担当:田代将人先生 30分)
 支援DICT(被災地に出動する場合)(担当:加來浩器先生 30分)
 受援DICT(被災地のDICT)(担当:川口辰哉先生 30分)
 物資支援について(担当:菅原えりさ先生 20分)

<休憩>

近い将来に想定されるDICT活動の実際について(1)(担当:櫻井滋先生 30分)

近い将来に想定されるDICT活動の実際について(2)(40分)

行政(保健所)との連携(緒方剛先生)	10分
DMATとの連携(高山和郎先生)	10分
JMATとの連携(川村英樹先生)	10分
日本赤十字社との連携(古宮伸洋先生)	10分

DICT活動時の標準装備の紹介(担当:高橋幹夫先生 10分)

DICTアクティブメンバー(AM)登録までの手順(担当:小野寺直人先生 10分)

DICT徽章(ワッペン)の交付<正式登録確認者のみ>

閉会

DICTメンバーと企業チーム(2024年9月時点)

アクティブメンバー (AM)

AM:Active Member

- 支援派遣のための研修を修了したDICT登録者は、アクティブメンバーとなる（意志確認後）。
- JSIPCが実施する「DICT養成研修」を修了するか、同等の学識・技能を有する実務経験者としてJSIPCが認めた者をDICTアクティブメンバーと称する。
- DICT-AMは、災害発生時にDICTとして支援派遣される資格を有する。



リザーブメンバー (RM)

RM:Reserve Member

- 原則としてDICT登録者は全員リザーブメンバーとなる。
- 登録確認後DICTリザーブメンバーと称する。
- DICT-RMは研修・訓練および後方支援活動に参加する資格を有する。



コアメンバー(災害時感染制御検討委員会委員 15名)

現メンバー 700名

(アクティブメンバー 358名)

仮メンバー(講習受講中) 79名

企業チーム: 15社

日本環境感染学会DICTによる支援のイメージ

